

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2016-11-01

No. 81



株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation
〒516-2102 三重県度会郡度会町大野木 3571 番地 2

本社・大野木事業所

<http://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全

目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 規格解説: CISPR 14-1 Ed. 6.0 (2016-08) 家庭用器具、電気工具等 - エミッション.....	3
IEC: 新規格リスト	11
ISO: 新規格リスト	13
国際テーマ: UNECE: 自動運転用技術規定に関する新しい開発	13
国際テーマ: インド向け IT 機器用電源の取り扱い	14
国際テーマ: Nemko がアラブ湾岸地域の通知機関に	15
国際テーマ: RoHS の新しい IEC 規格	15
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	16
USA: FCC: Part 2: 無線周波(RF)機器認証 承認ガイド(1/3)	17
USA: FCC: KDB: 無線周波機器輸入: FCC フォーム 740 記入のためのガイダンス	18
USA: NHTSA: 車両盗難防止規格の適用免除を簡素化	18
USA: CPSC: 子供向け以外または汎用製品に対する試験 (1/8)	19
USA: FDA: FDA 1997 年近代化法: 認定規格リストの修正、認定リスト番号: 045	20
USA: エネルギースター: ディスプレイ Ver7.0: 新基準発効	20
USA: エネルギースター医療用画像撮影機器などに新基準を作成中	21
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	21
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	22
USA: IEEE: 新規格リスト	23
EU: 解説: 無線機器指令 (RED) 整合規格リスト	25
EU: CENELEC: イーモビリティ協調グループ (eM-CG): 電気車両 関連標準化作業	25
EU: ETSI: IoT エコシステムが oneM2M グローバル規格により大幅に拡張	26
EU: CENELEC: 新規格リスト	27
EU: ETSI: 新規格リスト	30
ニュージーランド: 自動車用レーダ等電波探知用途向け 77-81 GHz が使用可能に	31
ニュージーランド: 無線通信規制 (海上使用目的一般使用者ライセンス) 通知更改	31
中国: CQC: 乾式電源トランス製品への新版規格の実施に関する通知	32
中国: CQC: 高圧トランス、電流トランス製品への新版規格の実施に関する通知	32
中国: 新規格リスト	33
台湾: 検査を適用するワイヤレスキーボードなど 92 項目商品の関連検査規定	34
台湾: 高効率太陽電池モジュール技術規範を実施	34
台湾: 新規格リスト	35
韓国: 海上業務用無線設備の技術基準の一部改正案行政予告	36
韓国: 放送通信機資材などの適合性評価に関する告示の一部改正案行政予告	36
韓国: 放送通信規格の制・改正予告	37
韓国: 電気用品安全管理 運用要領の改正告示	38
総務省: CISPR 規格 16-1-1、及び 16-1-4 の国内規格化: 情報通信技術分科会	39
総務省: 「700MHz 帯高度道路交通システムの高度化に関する技術的条件」の検討開始	42
経済産業省: 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈の一部改正: 意見募集	43
経済産業省: 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈の一部を改正	43
国土交通省: UNECE: 「ハイブリッド自動車等の車両接近通報装置」等の義務付け	44
ちょっといっぷく〜小クイズコーナー〜 ISO/IEC Guide 51 について	16
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内	24
社長の独り言	45



IEC: 規格解説: CISPR 14-1 Ed. 6.0 (2016-08) 家庭用器具、電気工具等 - エミ ッション

CISPR 14-1 Ed. 6.0 が、2016-08 発行された。主な内容及び旧版からの変更点を以下報告する。

- 本規格従来版 Ed.5 では、1 000 MHz までの妨害要求は、玩具に対してのみであった。Ed.5 の修正 1 以降、その他の機器にも 1 000 MHz までの適合要求が加わっている。
- 30 MHz - 1 000 MHz のエミッション要求: 主電源動作 EUT は、製造会社の選択により、放射エミッション測定代わりに吸収クランプによる 30 MHz - 300 MHz の妨害電力測定を実施。本規格に規定されている 2 条件を満たす場合、それ以上の試験無しに、300 MHz - 1 000 MHz の要求事項に適合するとみなされる。
- 今回の変更で、IH 機器に対する限度値は付属文書から規格本体に組み入れられ、妨害要求の下側は 9 kHz まで拡張された。
- 概観表の新設提示: 本規格の全対象機器に対する全試験項目についての概観表が新設提示されている。どの種機器にどの試験が適用されるかの対照表である。

USA: FCC: Part 2: 無線周波数(RF)機器認証 承認ガイド(1/3)

- 無線周波数(RF) 機器は、米国での販売または輸入の前に 47 CFR Part 2 に基づき適切に承認されることが義務付けられている。工学技術室 (OET) は、委員会により委任された権限に基づき機器認証プログラムを管理している。このプログラムは、米国で使用される RF 機器が有害な干渉を生じることなく効果的に動作し、委員会規則を遵守することを委員会が保証する主要な方法の一つである。この概要が機器認証承認ガイドとして Web サイトで紹介されている。本稿ではこれを三回に分け、報告する。

EU: 解説: 無線機器指令 (RED) 整合規格リスト発行

- 2016 年 10 月 14 日付けオフィシャルジャーナルにて無線機器指令の整合規格リストが発行された。今回は 4 回目のリストであり 4 件の規格が新規で掲載されている。

EU: ETSI: 新規格リスト

- 地上波放送デジタル TV 規格 ETSI EN 303 340 V1.1.2 が発行された。本規格は、今後 EU 官報に掲載され、これを使用し適合性の確認に使用できることになる。

総務省: CISPR 規格 16-1-1、及び 16-1-4 の国内規格化: 情報通信技術分科会

CISPR 規格 16-1-1、及び 16-1-4 の国内規格化

- 9 kHz から 18 GHz までの無線周波妨害波の測定装置の 特性と機能に関して規定している国際規格である CISPR16-1-1 第 3.1 版 (2010 年 11 月発行) を国内規格化する
- 9 kHz から 18 GHz までの放射妨害波を測定するためのアンテナと試験場の仕様、特性及び性能を規定している国際規格である CISPR16-1-4 第 3.1 版 (2012 年 7 月発行) を国内規格化する

経済産業省: 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈の一部改正: 意見募集

- 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について (通達) の一部改正 (整合規格の採用) に対する意見募集 改正する規格の数: 15 規格

社長の独り言

平成 28 年 10 月 19 日

濱口 慶一

私のこのコラムを読んでいるお客様のほとんどが、何かの製品を製造する企業にお勤めの方であると思います。今月で会社設立 30 年を迎えるに際して、事業の継承に取り組みだした最近、次世代に会社を任せるにあたり、自分の考えをまとめたものがないのに気付きました。会社を興した頃は、自分の生活を守り、会社を少しでも遅しくと寝る時間も惜しんで業務に取り組み、社員が増えるなどのように自分の考えを伝えて理解してもらって、目標にみんなのベクトルを合わそうかと、書物や友人の意見を聞く機会に終始して過ごしてしまいました。30 年間に色々経験したことが何一つ文章化されて残されていないと気づいたのです。コスモスの創立当時から、会社は「設計」だと自分なりの理論を機会あることにスタッフに話してきましたが、いざこういう時期になると中々文章化できない自分に歯がゆく思っていた時に、“三重県ものづくり改善インストラクター養成スクール”に来てくれませんかご案内をいただきました。スクールの講義内容に深く興味を覚えて参加を決意し、自分だけの受講でなく社員に説明する時に味方が欲しいと、社員にも参加する様に要請して、間もなく卒業のところまで来ることができました。会社を設立した時から思っていたが、会社は、社長がお客様に提供できる、提供する業務を遂行する組織をどのように設計するかで、その組織から利益が出るか出ないか、また出来上がった成果物がお客様から高く評価して頂けるかが決まり、これに企業として存亡がかかっているように思います。

故に、設計した業務フローに欠陥が出れば当然、そこから出てくる商品（コスモスでは報告書など）には欠陥が生じてくるものであり、組織の責任者は絶えず、欠陥として何か“兆候”が出ていないかを確認する、場合により予測して自ら組織に入り見ていく（現場に入って現場を見る）ことが必要であると、“三重県ものづくり改善インストラクター養成スクール”に参加させて頂き、先輩のインストラクターから丁寧に教えられました。会社を長く続けてきた割には論理的に文章化してこなかったことがある意味、社内ではワンマンと観える、またなんでもトップの意向を確認する、一見良いようでスピードのない組織になってきていると反省しているところです。

このスクールの私の課題は、ある企業のスピードアップ化です。現在 31 秒で 1 個の製品を製造する小さなラインがあり、3 名の女性が 1 日中立ち仕事で、ほぼ無駄時間は完全に削除されて運営されているように思うのですが、1 秒短縮して、製造個数を 1 個増やしたい、そのために何処をどのように改善すれば良いのかのアイデアを出すのが課題です。

インストラクターの間では、これ以上の改善は労働強化になるので課題を別にしようという意見も出たのですが、とにかく何か改良点を探そうとなり、工程の全域の関係者の動きや、作業者の動きを VTR で撮影しました。分析すると、3 名の内の一人の動きが歩数で他の作業者より少し多い所や、何度も目視確認がされるところが指摘事項としてあがりました。品質レベルの再教育や、判定基準の再教育などを徹底していけば、現状の品質レベルを落とさなくても作業時間を短縮できるのではとか、マーシャルと呼ばれる部品の供給系の動作にも余裕がないか、あれば 3 名の作業者の一部を分担してもらうなど、結構 QC 手法の 5 S を使うと無駄取りが出来ることを改めて勉強しました。このスクールを卒業後は、弊社の社内への 5 S の本格的な導入で、徹底した無駄取りを推進し、コスモスを支持していただいているお客様へより良いサービスを、早く届けられる組織へ変貌させていきたいと考えています。今後ともご高配の程よろしくお願い申し上げます。

● ニュースレターの内容

本誌は、**EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation)** 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

● 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレーション CS 部 (カスタマーサービス部) まで sales@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

● 本誌の内容案内、ご購読案内は、<http://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレーションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は原著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO : European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC &安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2016-11-01 (No. 81)

発行所: 株式会社コスモス・コーポレーション 松阪事業所 <http://www.safetyweb.co.jp/>

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2016 株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。